藍色の風　第 91 号 *Bando Heart Chronicle*

令和 ３年１月１日（季刊発行）　編集発行人　医療法人坂東ハートクリニック　　坂東正章

〒770-8025　徳島市三軒屋町下分 28 番地　http://www.bandoheart.jp

米国 CDC の成立ちと台湾の新型コロナウイルス対策

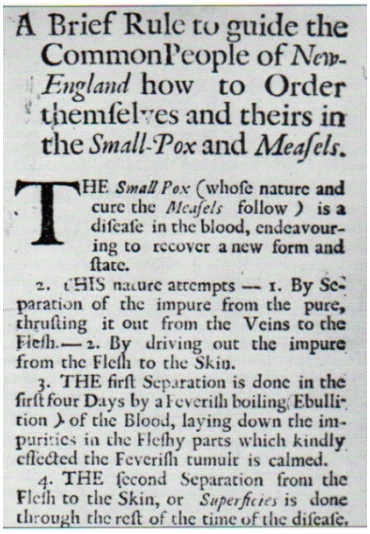
§はじめに

今回の藍色の風を発行する 2021 年１月時点でも、新型コロナウイルス感染症収束の目途は全く立っていないことでしょう。全世界的な感染拡大は留まるところを知らず、日本でも同様です。

そんな中で新型コロナウイルスを見事に抑え込んだのは台湾でした。2020 年 11 月下旬から１日に数名から 20 名程度の感染者が確認されていますが、12 月 20 日での台湾の感染状況は感染者 764 名、死者７名でした。見事としか言いようがありません。なぜ台湾がこれほどまでに上手に感染コントロールできたのか、いろいろと調べてみました。理由はいくつかありましたが、そのうちの一つが台湾 CDC の存在でした。台湾は 2003 年に流行した SARS 感染で手ひどいダメージを受けたため、将来発生するかもしれないパンデミック（世界的大流行）に対して、十分な感染防御策を準備しておこうと考えました。そのうちの一つの方策が台湾 CDC の設立でした。CDC と書きましたが、これは Centers for Disease Control and Prevention（アメリカ疾病予防管理センター）を略した頭文字で、アメリカに設立された組織でした。米国 CDC が本家です。なお、韓国も同様の意図で韓国 CDC を設立しています。

米国 CDC は国内外の健康に関する脅威からアメリカ国民を 24 時間体制で守ることを使命としています。対象は感染症などの疾患のみならず、大気汚染、海洋汚染などの環境に由来する健康被害、さらには毒物使用による被害や事故などの外傷による被害への予防もカバーし、予防処置としてのワクチン業務も担当しています。これだけ多方面の活動をしてきた米国ＣＤＣですが、トランプ大統領は今回のパンデミックで CDC のアドバイスを完全に無視し、「新型コロナウイルス感染はただの風邪だ」などとうそぶいて、米国を世界最大の感染大国にしてしまいました。

トランプ大統領の無知はさておき、台湾や韓国が教えを請い、自国に同様の組織を設立したお手本の米国 CDC はどういう事情で設立され、どのような組織で運営されているか、お知らせしようと思います。今回の日本の感染症対策では不適切な部分が沢山指摘されており、将来のパンデミック再来時に十分な対応ができるようにするために、米国 CDC の一端を知っておくことは大切と思い今回記載しました。また、後半には台湾の感染症対策で日本とは異なった点についても記載しています。併せてお読み下さい。


A Brief Rule to guide the Common People of *New-England* how to Order themselves and theirs in the *Small-Pox* and *Measels*.

THE *Small Pox* (whose nature and cure the *Measels* follow) is a disease in the blood, endeavouring to recover a new form and state.

2. THIS nature attempts — 1. By Separation of the impure from the pure, thrusting it out from the Veins to the Flesh. — 2. By driving out the impure from the Flesh to the Skin.

3. THE first Separation is done in the first four Days by a Feverish boiling (Ebullition) of the Blood, laying down the impurities in the Fleshy parts which kindly effected the Feverish tumult is calmed.

4. THE second Separation from the Flesh to the Skin, or *Superficies* is done through the rest of the time of the disease.

§CDC のルーツ

CDC そのものは第二次世界大戦後の 1946 年に設立されたのですが、そのルーツはアメリカ建国時代に遡ります。コロンブスのアメリカ大陸到着は 1492 年でした。その後、イギリス人をはじめとしたヨーロッパの人々がアメリカに移住することになります。17 世紀に約 40 万人のイギリス人がアメリカに移り住んでいます。その後もドイツ人、フランス人、スイス人などがアメリカへ移住し、

アフリカからも黒人が奴隷として運び込まれました。こういった多くの人種が集まってくることで発生した問題の一つが感染症でした。開拓地の不衛生な環境に加え、移民してくる欧州人からもたらされる感染症が米国の開拓者を悩ませました。当時の人達はなぜ疫病が蔓延するのかを観察し、多くの感染症は外国からの帆船やそれに同乗してくる船員からもたらされることに気づきます。このため公衆衛生と海洋保健という分野が、米国開拓初期から併せて検討され発達することになりました。

その当時に流行った疾患は黄熱病、コレラ、梅毒、ペスト、はしかなどで、どの病気もその当時の開拓者の健康を害し、命を奪う疾患でした。前頁の写真は 1721 年にボストンで発行された新聞の切り抜きです。その当時のニューイングランドに住む人々に対して、はしかや天然痘に罹患した時、最初にどう対応すべきかを記載して注意喚起をしています。

ところで、その当時の日本はどのような時代かといえば、1716 年に 8 代将軍徳川吉宗が享保の改革を行った頃です。江戸時代に天然痘は疱瘡と呼ばれ、これは疱瘡神という疫病の神様がこの病気をもたらすと考えていました。このため疱瘡神を丁重に扱い、天然痘が軽く済むよう祈ったとのことです。天然痘が大流行すると、お守りを貼ったり、疱瘡神が赤を苦手にしたという伝承にちなんで赤い物を身の回りに置いたりして、疱瘡神の退散を人々は祈願した由です。

『疱瘡心得草』

こういった民間の対応とは別に、徳川幕府も疫病対策を行っています。徳川吉宗は病気から人々の生命を守ることは将軍の責務であるという意識を強く持っていたとのことです。このため、無料で診療や投薬を受けられる施薬院を作り、これが後の小石川療養所に発展します。また疫病に罹患したときの薬や治療法を記した「普及類方」という書物を編纂し、庶民に配布しています。

1700 年代の同時期の日本と米国とで、共に疫病に対して工夫を凝らしていますが、効果的な薬もワクチンもなく、苦労したことと思います。因みに享保元年（1716 年）には江戸の町で疫病による死者が一か月に８万人を超えたと記録されています。

ジョン・アダムズ

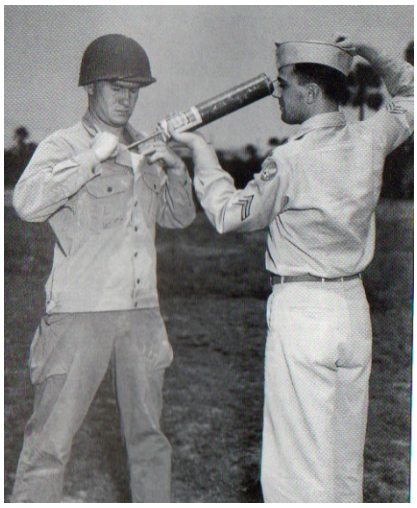
さて、1793 年にはフィラデルフィアで黄熱病が蔓延し、その当時の人口の 9%が死亡したという記録が残っています。こういった事態を背景に、アメリカ海軍創設者で第２代米国大統領ジョン・アダムズは 1798 年に米国史上初めての船員のためのヘルスケアや病気の予防を司る公的組織（Marine Hospital Fund 海洋病院財団）を設立しました。そしてこれが 1870 年に設立される The Marine Hospital Service(MHS)の基礎となりました。1798 年と言えば江戸時代の寛政 10 年で第 11 代将軍徳川家斉の時代です。そのような時代に国民の健康維持のための公的な医療組織を立ち上げていることに驚きます。

日米和親条約は 1854 年に、日米修好通商条約は 1858 年に結ばれ、明治新政府の樹立は 1868 年でした。その後、アメリカはさらに国勢を拡大し、世界に外交、貿易販路を広げます。それに伴って MHS はその機能を拡大しました。1878 年には外国との諸交渉に伴う感染予防のため検疫制度を拡充し、国内では公衆衛生の知識普及に努め、同時に Marine Hospital を国内に多数配置していきました。日本では 1877 年に西南戦争が行われていましたが、そのような時期にアメリカではすでに検疫や公衆衛生の拡充が行われていたのです。こういった事業が日本とは比べ物にならないほど古い時代から行われていたことに驚きました。

§MHS から CDC へ

MHS に求められた重大な業務は第二次大戦におけるマラリア対策でした。アメリカは Malaria Control in War Areas(MCWA)という組織を創設し、アメリカ南部や国外の戦闘地域におけるマラリア制御の業務を行っています。MCWA は内科医、技術者、昆虫学者で形成され、マラリアの感染者、蚊の生息地域や繁殖場所、治療手段を調査、検討し、最終的に DDT が極めて有効であるという結論に至ります。こういった体験から、新たな公衆衛生上の問題に対しては、種々の専門家が一堂に会して対応することの有効性に気づき、それが第二次世界大戦後に CDC を設立する動機となりました。

閑話休題。太平洋戦争で日本はアメリカに打ちまかされましたが、戦力の差もさることながら防疫面での力量の差が大きかったと指摘されています。アメリカはマラリアの原因となるハマダラカの駆除に際して、除虫菊の成分であるピレトリンを軍需用に生産し、缶入りのエアゾール製剤として太平洋の戦闘地域に配布しています。このピレトリンは除虫菊から抽出されるのですが、日本では北海道で除虫菊が生産されていました。しかし、食糧増産政策のため転作指示があり、その生産が縮小されました。このため、南方戦線に防虫剤としてのピレトリンを供給することができなくなったのです。ソロモン諸島に派遣された兵士 3 万 2000 名のうち 8500 名が戦死し、餓死と病死が 1 万 2300 名でしたが、その内 4000 名がマラリアによる病死とされています。戦争遂行において、アメリカのように綿密な防疫対策が全くなされていなかったことが、物量の差以上に大きな原因であったと指摘されています。



「兵士に DDT を散布」

さて、第二次世界大戦後の CDC はエイズウイルス、エボラ出血熱、新型インフルエンザ対策などの感染対策で大きな役割を果たしました。また医療者向けに感染予防、感染制御のための各種ガイドラインをたくさん出版しており、それらが多くの言語に翻訳され利用されています。日本で出版されているものには次のようなものがあります。「医療従事者の感染対策のための CDC ガイドライン」「医療施設における消毒と滅菌のための CDC ガイドライン」「隔離予防策のための CDC ガイドライン」「HBV（B 型肝炎）、HCV（C 型肝炎）、HIV（エイズウイルス感染）の職業上曝露への対応と曝露後予防のための CDC ガイドライン」等々。

現在の CDC は感染症専門医、公衆衛生専門医、歯科医師、感染症対策看護師、臨床検査技師、病理学者、気象学者、統計学者、微生物学者、など多種多様の職種が集まって、共同で感染症や公衆衛生上の問題に対応しています。CDC 本部はジョージア州アトランタにありますが、本部職員は 7000 人、支部職員は 8500 人の組織で活動を続けています。自国のことだけではなく、世界中の感染症、公衆衛生問題に目を光らせて対応しているのは本当にすごいと思います。

ところで、日本の新型コロナウイルス感染症対策において、安倍前首相はその統括者に西村康稔経済再生担当大臣を指名しました。私はこの人事が発表された時、開いた口が塞がりませんでした。なぜ経済再生担当大臣が新型コロナウイルス対策の統括者になるのか、理解できません。経済という枠の中で感染症を制御しようとしたのでしょう。政府は新型コロナウイルス感染症対策専門家会議を設け、その後新型コロナウイルス感染症対策分科会に改組しました。急場しのぎのように急いで各分野から人材を集め、対応を開始しました。CDC のように普段から幅広い人材で疾病対応を行っている組織と比較すると、付け焼刃的であり、雲泥の差がありました。

さて、台湾、韓国は 2003 年の SARS 感染で手ひどい被害を受けたため、再度のパンデミック対策として米国 CDC のような組織を早急に設立すべきとして、SARS 感染後に CDC 類似の組織を創設しました。このため、今回の新型コロナウイルス対策では早々と対応できています。日本のように PCR の検査が「目詰まり」で検査件数を増やせないという事態にはなりませんでした。日本の新型コロナウイルス感染症がいつ終息するか全く不明ですが、将来のパンデミック対

策として、米国 CDC のように普段から広範囲の感染症関連の人材を集め、活動できる組織を作っておくべきです。感染症は平時には問題となることが少ないため、そのための予算は毎年削られてきたという経緯があります。しかしひとたびパンデミックが発生すると人的補給が間に合いません。その対応策として医師の Double　Major（二重専攻）という方法が提案されています。それは医師が単一の診療科を専門とするのではなく、医師に複数分野の専門性を持ってもらおうという方法です。これまでも皮膚科+泌尿器科、産婦人科+内科といった標榜をする医師がいますね。それなら循環器科+感染症科、外科+公衆衛生科、耳鼻咽喉科+感染症科といった二つの分野をカバーする医師を養成すればよいのではということです。将来のパンデミック再来に対して、こういった方法を検討してよいと思います。私も感染症学、公衆衛生学を勉強しようと思っています。今回のパンデミック終息後の議論に期待したいと思っています。

§台湾の新型コロナウイルス対策で気づいたこと

冒頭にも書きましたが台湾の新型コロナウイルス対策は非常にうまくいき、その被害は世界が驚くほど軽微なもので済んでいます。なぜそのように上手に対応できたのか、台湾の施策に関して種々の書籍や雑誌が出版され、ネット上でも論評されています。私もいろいろと読んでみましたが、台湾がこの感染症をうまくコントロールできた理由にはたくさんの工夫がありました。それらをすべて記載することはできませんが、私が気づいた中で日本と大きく異なった事項を記載してみようと思います。

① 情報収集能力の差：中国本土の言語と台湾の言語がどの程度異なるのか私にはわかりませんが、中国と台湾との問題に関して、微妙な問題が生じると中国と台湾とのネットユーザー間で議論が 過熱して、罵り合いになることも珍しくないとのことです。それだけ言語の壁がないということでしょう。2019 年 12 月下旬に中国のインターネット上では、突如「SARS」という検索ワードが急に増加しました。これに気づいた台湾 CDC の副署長は数日間、睡眠時間を削って必死に中国と台湾のネットを見続け、台湾が感染防御体制をとるべきかどうかの判断材料を探していました。2019 年 12 月 31 日午前 3 時頃に武漢市衛生健康委員会の次のような通達がネット上にアップされたのに気づいています。「原因不明の肺炎治療状況に関する武漢市衛生健康委員会の緊急通知」というタイトルで「武漢市華南海鮮市場で原因不明の肺炎患者が現れているので、この 1 週間に診察した医師は類似する原因不明の肺炎患者の報告を」という内容でした。副署長はさらにネットでの情報収集を続け、「武漢市で 27 人の感染者が確認され、うち 7 人は重篤な症状である」との情報を確認し、すぐさま内容を纏めて台湾政府に報告しています。そして、12 月 31 日午後には緊急の関係閣僚会議が開催され、蔡英文総統にも報告されています。情報の把握、閣僚会議、検疫体制の強化、中国への感染状況の問い合わせ、WHO への通報、国民への注意喚起といった行動が 12 月 31 日に行われていたのです。台湾と武漢市との直行便はその当時、週に 7 便もあったのですが、12 月 31 日から到着便への検疫は厳しく実施されています。初動の対応が非常にスピーディーであったことがわかります。

　中国では野味という野生動物を食べる習慣が古くからあり、今回のパンデミックで中国共産党政府は野味を禁止しましたが、古い習慣が政府の通達で消滅するとは思えません。中国では「上に政策あり、下に対策あり」といわれています。これは「政府の決定事項について人々が抜け道を考え出す」という意味です。禁止しても早晩同様のことが発生するでしょう。そして野生動物を食する習慣から動物のウイルスが人に感染する危険性が指摘されています。これまでも中国共産党政府は感染症情報を迅速にかつ正確に WHO に報告しませんでした。今後も中国の感染状況には十分注意する必要があり、同じ民主主義国家である台湾に、感染情報共有の協力を依頼する必要があると思います。

② オードリー・タンの抜擢：いろいろな場面で紹介されることがあり、ある程度はご存知かもしれません。1981 年生まれの男性でしたが、性転換をしたいわゆるトランスジェンダーの方です。8 歳から独学でプログラミングを学び、15 歳でプログラマーとなり、16 歳で台湾の

IT 企業の共同経営者となっています。19 歳になってから米国のシリコンバレーで起業し、30 代前半に Apple で人工知能のプロジェクトに参加しています。その後 35 歳の時に蔡英文政権に入閣し、デジタル担当政務委員（大臣）に就任しました。今回の新型コロナウイルス感染症対策における彼女の業績は、大人一人につき週に 2 枚のマスク購入を、薬局などに並ばなくても ID や健康保険証を提示すれば容易に購入できるシステムを完成させたとして評価されました。それはそれで素晴らしいことだったのですが、私が感銘を受けたのは彼女の政治姿勢でした。彼女へのインタビューをした本からその部分を抜粋します。

「私が従事することすべては公的記録として文字に起こされ、あるいはビデオに録画されて公開されます。私が率いるチーム PDiS の活動は、すべてインターネット上で全世界に明らかにされているのです。私が行うウェブ会議にしろ、誰かとの会話にしろ、この本のために受けているインタビューにしろ、すべてオープンです。そのため、ロビー活動をする人は、私に対してロビー活動をするのではなく、全台湾社会に対してロビー活動を展開していることになります。そうなると、どの活動団体も、自分たちの業界など、小さな利益のためのロビー活動はできなくなります。グローバルな目標や持続可能か否かという観点から陳情にやってくるのは、すべての団体が『常に何もかも見られている』と承知しているからです。」

オードリー・タン

鶏卵大手のアキタフーズという会社が元農林水産大臣の二人に現金を供与したと 2020 年 12 月に報じられました。政治家が密室で賄賂を受け取るようなロビー活動が全くできない制度を彼女は作っています。これはすごいですね。また、今回の記事とは直接関係はないのですが、台湾では外国人でも半年以上台湾に住めば誰でも台湾の国民健康保険に加入することができ、医療を受けることができます。今回の日本のコロナ禍で外国籍の人への医療対応が日本人と同じようにできたでしょうか？とても恥ずかしい思いがしました。

§終わりに

今回は米国 CDC の成立ちと私が感心した台湾における新型コロナウイルス対策の特徴をかいつまんで記載しました。台湾での対策は書籍になって出版されています。興味のある方は文末の参考文献をお読みください。

このたびの新型コロナウイルス感染症によって日本が受けたとてつもなく大きなダメージを肝に銘じ、何年先になるか分かりませんが、将来のパンデミックへの対策をきちんと立てることが必要です。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということがあってはなりません。私の分野でも循環器疾患の専門医としての勉学のみならず、感染症学、公衆衛生学をも第二の専門分野にできるよう、勉強していこうと思っています。私の存命中にこのことが役に立たないことを願って…【坂東】

参考文献

・Centers For Disease Control and Prevention Bob Kelley Arcadia Publishing 2015
・なぜ台湾は新型コロナウイルスを防げたのか　野嶋　剛　扶桑社新書
・自由への手紙　オードリー・タン　講談社
・オードリー・タン　アイリス・チュウ　文芸春秋
・江戸幕府の感染症対策　安藤優一郎　集英社新書
・危機とサバイバル　ジャック・アタリ　作品社
・丁寧に考える新型コロナ　岩田健太郎　光文社新書
・ポストコロナ期を生きるきみたちへ　内田　樹編　晶文社
・コロナと生きる　内田　樹　岩田健太郎　朝日新書
・命の経済　ジャック・アタリ　プレジデント社
・新型コロナウイルス対策を診断する　徳田安春　カイ書林
・人類 VS 感染症　國井　修　CCC メディアハウス

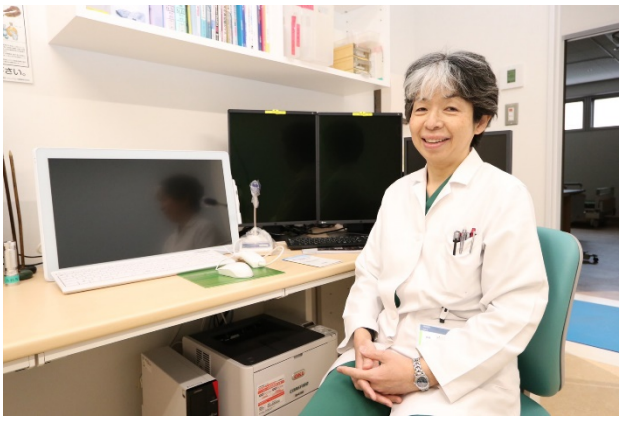
桜を伐採してしまいました…

平成 18 年春に、通院されていた F.O.様がクリニック前の植え込みが寂しいからと、桜の苗木を二本植えてくれました。日々成長し数年後には春にきれいな染井吉野の花を咲かせてくれるようになりました。花が散ったあとは元気な若葉が顔を出し、秋には葉を落として翌年の準備をし、冬には花芽がつき、春が近づくにつれて蕾の膨らみを大きくしていました。私は通勤の行き帰りに桜の回りを歩きながら、桜に話しかけていました。「ありがとう、今年もきれいな花を」「若葉、元気やね」「葉が落ちたけど、もうすぐ次の新芽が出るもんね」「蕾、膨らんできたよ。花が咲くの、楽しみにしてるよ」私の一年、一年、またクリニックの日々の成長に添って、桜も成長してくれました。

そんな桜を伐採する羽目になりました。桜があまりにも見事に成長し過ぎたためでした。桜の幹が非常に太くなりました。幅 105 ㎝の植え込みに桜を植えていましたが、根元の幹回りは軽く 1 メートルを超えるようになりました。植え込みは水路に接していたため、桜の成長に伴って根が張り、水路壁が破壊される事態が想定されました。植木屋さんに尋ねると「桜の根は桜の枝が伸びている範囲まで張ってきます」とのこと。水路壁が破壊されたときの修繕費用もかなりの額になると聞かされ、これ以上このまま桜の成長を見届けることができないと判断したのでした。この背景にはノイバラ伐採の経験がありました。中庭で真っ白な花を華麗に咲かせてくれたノイバラも 2020 年に伐採してしまいました。これはノイバラの根が非常に発達し、ノイバラの下を走っていたトイレの配管に絡まり、配管を閉塞させてしまったからでした。

右上の写真は 11 月 3 日午前 8 時過ぎ、桜伐採当日の写真です。伐採作業の始まりには立ち会いましたが、作業の全過程は見るに忍びず、作業が終了してから再び現場に戻りました。桜の木がなくなった植え込みは風が素通りして、寂しい限りでした。桜の切り株を見てみますと、右中の写真のように長径 50 ㎝短径 30 ㎝の見事な幹でした。枝ぶりのよい幹の部分を残してくださいと頼んでおいたのが、私が持っている桜の幹です。きちんとした台に固定して、これからもクリニックに飾ろうと思います。同志のように思っていた桜の命を私の勝手で奪ってしまいました。桜そのものは何も悪いことをしていませんでした。本当に申し訳なく、ごめんなさいとしか言いようがありません。本当に可哀想なことをしてしまいました。　【坂東】

徳島健生病院　外科　佐々木　清美院長先生



新築移転した徳島健生病院

2020 年 4 月、徳島健生病院での出来事です。新型コロナウイルス感染症の患者さんに対して、感染防御を完璧に行って診療したにも拘わらず風評被害が発生し、同院が大きなダメージを受けました。理不尽な行為であり、「健生病院頑張れ！」と私は応援メッセージをお送りしました。

そのお礼にと 11 月に健生病院院長の佐々木清美先生がわざわざ当クリニックにご挨拶に来られました。その際に、健生病院が 2020 年 12 月に新築移転することを知り、いろいろとお話を伺いました。新病院案内のパンフレットの中に、診療科として肛門外科があることを発見し、これはラッキーと喜びました。

女性の肛門疾患の紹介先として、以前はさんかん内科外科があったのですが、同院院長先生の急逝で閉院となってしまいました。その後、近隣地域で女性外科医が担当する肛門外科が見当たらなかったのですが、今回佐々木先生が肛門外科を担当されていることがわかり、それなら少しお話を伺おうと思い 12 月初旬に健生病院をお訪ねしました。

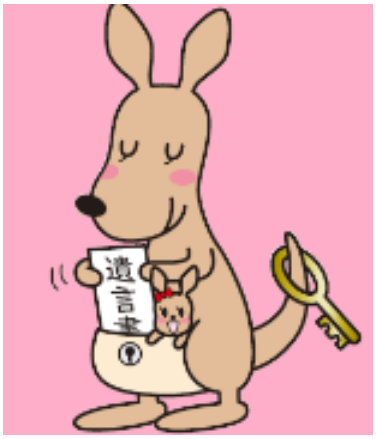
先生は小松島市出身です。香川医科大学（現在の香川大学医学部の前身）を卒業後、4 年間同大学で外科研修を受け、その後健生病院に赴任されています。外科医を志したのは高校生の時に、リーダズダイジェストに掲載された米国女性外科医の文章を読んで感銘を受けたのでと言われました。また手塚治虫の漫画、ブラックジャックにも啓発されて外科医の道を志したとのことでした。

先生は肛門外科だけが専門ではなく、心臓血管外科以外の一般的な外科分野も担当されています。しかし、肛門疾患に悩む女性の受け入れ先が十分では無いことに気づき、女性外科医による肛門外科を開始されたとのことでした。たくさんの患者さんが受診しているようですが、「もっと早く受診していれば…」という方も時々おられるようです。排便時だけではなく、安静時にも肛門や肛門周囲の痛み、不快感があれば受診をと言われています。また肛門からの出血を伴う場合には、肛門疾患以外にも大腸がんや大腸憩室などの疾患があり、その鑑別が必要のため、ためらわずに受診して下さいとのことです。

女性の方は肛門疾患ではなかなか気軽には受診しにくいかもしれませんが、担当してくれる先生が同性の女性であり、相談しやすいことと思います。受診をためらってズルズルと先延ばしするのではなく、きちんとした診療を受けておいた方がよいです。肛門疾患による病状を私に直接言いにくいようなら、看護師の問診時にその旨をお伝えください。内容の確認をして、私が佐々木先生宛の紹介状を作成します。加齢に伴いいろいろな病気が出てきてしまいますが、クヨクヨせずまた恥ずかしがらず、きちんとした診療を受けておきましょう。

なお、同院には便秘外来もあり、男性外科医が薬剤のみならず生活習慣の調整を含めて相談に乗ってくれるそうです。ご希望の方はお知らせください。紹介状を作成致します。　【坂東】

自筆証書遺言書保管制度



通院されている方の中で、親や配偶者の死亡に伴う遺産相続で揉め、家庭裁判所などでの調停が行われた方が現在進行形の方も含めて、これまでに５名おられました。そういった裁判沙汰で血圧が変動したり、糖尿病のコントロールが悪化したり、また思わぬ不整脈が出現したりで、治療が大変でした。そのような病状の変化に対して私も工夫して対応しましたが、相続関連の根本的な解決がなされないと、悪化した病態をうまく制御することはなかなかできません。

遺言者作成に関しては、公証人立ち会いのもとでの公正証書遺言制度があるのは知っていましたが、財産の価格に伴って費用がかなり高くなるため、敷居が高いと思っていました。何かいい方法はないかと考えていたのですが、2020 年７月から法務局に自筆証書遺言書保管制度ができたことに気づきました。それを『藍色の風』で皆さんにお伝えしようと思っていたのですが、新型コロナウイルス感染症対応で手一杯となり、なかなかその時間がとれませんでした。しかし、11 月の徳島新聞に徳島地方法務局の方がこの制度の広報をしている記事を見つけました。詳しい内容を教えて欲しいと連絡したところ、たくさんの資料を送っていただきました。それをかいつまんで皆様にお伝えします。

自筆証書遺言書保管制度とは何か？

遺言をしようとする人が自筆で遺言書を作成し、それを地域の法務局に提出して保管してもらう制度です。遺言者が亡くなった場合には、法務局が該当する相続人に対して遺言書が存在する旨を連絡するとのことですが、その具体的な方法はまだ決まっておらず、令和３年早期に制度確立するとのことです。遺言者の死亡確認を法務省が早急に確実に行うことが、現時点では困難なためです。このため現時点でこの制度を利用するのであれば、複数の相続人に対して「自筆で書いた遺言書の保管制度を利用して、遺言書を法務局に預けてあるから」と伝えておくのがよいと思います。公的な法務局が保管するため、親族などが勝手に遺言書を書き換えたりすることはできません。ただし、遺言者の気持ちが変わったら書き換えることはできます。費用は遺言書一通につき 3,900 円です。

遺言書はコンピューターで管理するため、自筆で記載する遺言書の用紙はＡ４サイズと決められており、財産目録以外はすべて自筆で記載する必要があります。その様式などには一定のルールがあるため、法務局ホームページで確認するか、または地域の法務局の窓口で資料を貰い確認してください。

法務局でのこういった手続きは待ち時間を少なくするため、すべて予約制となっています。予約方法には以下の三つの方法があります。「備えあれば憂いなし」です。遺産相続で遺族間に争いを起きそうだと危惧されている方は、この制度を活用されたらと思います。

① 法務局手続案内予約サービスの専用ホームページを通しての予約
② 法務局への電話による予約（徳島県では徳島地方法務局供託課　電話 088-622-4867　徳島地方法務局阿南支局　電話 0884-22-0410　徳島地方法務局美馬支局　電話 0883-52-1164　受付時間は平日のみで 8:30～17:15）
③ 法務局窓口における予約　受付時間は平日のみで 8:30～17:15

なお、法務局では遺言書が一定の様式できちんと記載されているかどうかは確認してくれますが、「誰にどの程度遺産を分割して遺言書を作成したらいいだろうか？」といった、遺言書の内容相談は受けられないとのことです。その点はあらかじめ知っておいてください。

さらに詳しい情報が必要な方はインターネットで検索してみてください。「法務局、自筆証書遺言書」と入力すると、目的のページを発見することができます。なお、簡単なパンフレットは待合室に置いておきます。興味のある方はお持ち帰り下さい。　【坂東】